

いつ 2012.02.11(土)雪
どこ 富士山・ニッ塚(1929m)上2200mまで
コース 洞門～ニッ塚上～洞門
だれ 後藤隆徳(64)、石和加代子、香取正広(元三島労山会員・51)
きぼ 上り 洞門(1280m)～ニッ塚上(2200m)＝約920m
下り //



1. 洞門発 6:15

前日から後藤さんの家に厄介になり、途中毛利さんのお墓参りをしました。もうあれから7年だそうです早いものです。夜は渡辺昭二さんと呼んで後藤さんの自宅で旬の野菜とお酒をご馳走になりました。おいしかったです。

朝5時に下土狩を出発。洞門に6時到着。

暗い中ヘッドランプをつけ装備を整え、いざ出発。僕の装備はそっくりそのまま20年以上前のものなのでだいぶ疲れている。歩き始め太郎坊の駐車場を右に見ながら低木の間を歩いてゆく。道は数日前に降った暖かい雨の

影響で雪代ができています。夜が明け周囲は明るくなる。下界は晴れているのにここだけ高曇っている。雪は表面が凍って硬い部分と体重を掛けると20cmくらい沈む場所、土や砂礫の混じったところが入り混じっている。

2. ニッ塚下 7:25

スキーをザックのワキにつけ軽快に登るが、久しぶりのちゃんとした登山なので荷が肩に應える。後藤さんはいいペースでグイグイ登ってゆく。都会でのサラリーマン生活につかっている体に富士の傾斜は徐々に応え始めすこしづつ後藤さん、石和さんに遅れ始める。ニッ塚下で少し休憩。暖かい飲み物がおいしい。



3. ニッ塚下 7:30

ニッ塚を過ぎたあたりから前方のガスが徐々に厚くなり始め雪がパラパラと降り始めてきた。前を行く石和さんが小さく見える。後藤さんはさらに先だ。

ニッ塚上塚でガスのかなたに声を掛けてみた。

「後藤さーん。」すると上のほうから声が返ってきた。声は聞こえど姿は見えない。やがて後藤さんはスキーを装着し上から滑ってきた。そのあとから石和さんがアイゼンをつけて歩いて降りてきた。





4. 滑降 8:30

後藤さんは「これ以上行くとホワイトアウトしてしまい危険だから降りよう。」と言った。

僕もスキーを装着して滑り始める。雪の表面が氷化してターンがしづらい。それでも強引に体重を移動させスキーを回してみると不恰好ながらも何とか曲がれた。



少しやってゆくうちに慣れてきたので調子に乗ってスピードを出そうとしたらターンでスキーが流れ転んでしまった。スキーがビンディングから外れてしまったが僕のスキーは旧式なので元に戻すのが結構大変だ。

後藤さんと一緒に雪代や砂礫が露出している部分を避けながら慎重にコース取りをしながら下ってゆく。コースは次第に狭くなってゆき、ターンしづらい。無理に曲がろうとしてコケる。何度もコケながら下ってゆく。転んだ後は起き上がるのに腹筋や、腕の筋肉を繰り返し使うので消耗する。

下ってゆく途中で歩いて降りてくる石和さんを待つ間少し休憩した。程なく石和さんはいいペースで降りた来て合流した。最後は樹林帯の中をルートを見つけて滑るが、狭くコース取りが難しい。ザックが木に掛かったり、曲がれなかったりでまた何度かコケながら周遊道路に出ることができた。スキーを外して歩いてゆくと車に出た。何とか久しぶりの山スキーを無事終えることができた。



【報告者・編集後記】

後藤さんから2週続けて富士山に行った様子と写真がメールで送られてきた。

何だか山スキーに参加したい気持ちがムズムズしてきた。山スキーに最後に行ったのは一体いつの頃だったろうか。たぶん20年以上は経っていると思う。その頃は東京の山の仲間とよく山スキーに行っていた。上越白ヶ門～宝川温泉や尾瀬の至仏や燧ヶ岳からも滑った。でもいつしか仕事の忙しさにかまけすっかり山スキーと遠ざかった生活をしていた。今回後藤さんから声を掛けてもらって思い切って参加し、登りではバテテ遅れ、滑りでは20回くらいコケながらも何とか山スキーを楽しめた。

でも来てよかった。軽い疲労感と筋肉痛と引き換えに充実感を感じている

後藤さんには若い頃から山の楽しさ・厳しさを教えてもらい、何かと気に掛けてもらってそれ以来お世話になりっぱなしだ。今回を機にまた仕事の隙間を見つけ出来ればもっと条件の良い富士山を再チャレンジしたいと思う。どうもありがとうございました。

【リーダー・編集後記】

香取君とは、私が沼津高専山岳部の顧問を頼まれてからの付き合いだ。彼がまだ20歳の頃のだから、かれこれ32年前の話。

彼とは数々の登山を共にしたが、中でも1980年12月29日～1月1日の鹿島槍ヶ岳、翌年、1981年12月30日～1月2日までの五竜岳は印象的な山だった。

鹿島槍は、大雪で大町のガソリンスタンドの屋根が落ちていたり、三島を車で8時発だったが、雪道が厳しく、鹿島山荘に到着は19時だった。

当時の荷物は、秋に荷上げ（あらかじめ燃料・食料などを一斗缶に詰めて山に上げておくこと）をしてあったにも関わらず、後藤27Kg、村松（香取の旧姓）28Kgだった。大雪で荷上げ品は3mくらい雪の下だった。鹿島槍アタックは、飯豊で事故死したM、S、村松、私の4名だった。BCで酒がなく、水盃で「酔ったふり」をしたものだ。81年、五竜岳は大雪・悪天候・雪崩で白岳までだった。結局、五竜岳は翌82年に登頂した。

80年3月20～22日は、高専生徒4名、教官（高専はこのように呼ぶ）1名と、八ヶ岳・ジョーゴ沢～硫黄岳と地藏尾根～赤岳～文三郎尾根をやっている。その後、5月連休の鹿島槍、25日、吉田大沢～頂上で五合発4：48、剣ヶ峰9：36だから、なかなかイイタイムだった。

6月・亡くなったMと3人で西丹沢・小川谷、7月・鍋割山～塔ヶ岳、7月・またMと西丹沢・悪沢、8月・上越国境、平標山～谷川岳縦走で平標山の西ゼンをやった。第一スラブ・第二スラブが雨で悪かった。村松は大分ビビったようだ。稜線に出ると風雨が酷く寒かった。その時は二人がやっと入れる、仙ノ倉岳のパイプ避難小屋に泊まった。

9月・北岳バットレス。この時は二人で、第一尾根ノールルートと四尾根を上った。11月・小川山をやっぱりMと3人で、スラブ状岩壁・屋根岩二峰南稜だった。

81年になると一緒の山は少なくなったが、11月・富士山吉田口～頂上だった。この時は、BC発4：50～頂上9：45だったが、まあまあタイムだった。スキーは、蓼科山・乗鞍岳で楽しんだが、たいした山はやっていない。

82年になると、村松も東京に就職して多忙になり、一緒の山はほとんど無くなった。でも、彼とは短期間ではあったが、記憶・記録に残るいい山の連続だった。そんな意味では感謝・多謝・深謝である。